



「ある気象学者の一生」

藤田哲也 著 藤田碩也 編
自費出版 1996年7月
A5版 94頁 非売品

シカゴ大学の藤田哲也教授は、これまでの長い研究活動にひと区切りをつけるために、研究の足跡を298頁の本“*The Mystery of Severe Storms*”にまとめ、1992年に出版した（気象庁および気象研究所には寄贈されていると思われる）。しかし、是非とも日本語で、という要望が多いことから、この度、前著の内容を要約し、また必要な補筆を行って、表題の小冊子を作られた。その内容は、第一章に彼の少年時代から渡米までが自伝として記されており、第二章ではシカゴ大学で行ったトルネードの調査研究が、第三章ではダウンバースト発見の顛末と、それを実証するための苦労話がまとめられている。

明治専門学校（現九州工業大学）の機械科の学生として、製図やその撮影変換、地図の見方や作り方等を習熟されたことは、後の研究活動において、トルネードの被害調査や航空写真の解析、気象衛星データの解析等の中で生かされており、他の気象学者の追従を許さぬ幾多の手法と業績を残すことになった。

長崎と広島の前爆被害調査に加わって、爆心付近における物の倒れ方と炭化の状況等を詳しく調べた経験は、後に、トルネードの構造を調べたり、ダウンバー

ストを解明するに当たって大きく生かされた。また、1947年8月に背振山頂測候所で雷雲を観測していたところ、雷雲の雲底から強い下降気流が出ていることを体験している。このことが、彼が渡米するきっかけとなり、また、ダウンバーストの発見にまでいたるメソ気象学発展の礎になっている。彼は通説にこだわることなく、自然現象をじっくり観察することに努めた。トルネードの構造を究明するための被害と痕跡調査にはヘリコプターを縦横に使い、回転する積乱雲やダウンバーストの観測にはNOAAのターボジェット機を存分に使うことが出来、藤田飛行隊の異名を得るほどであった。さらに、ダウンバーストが存在するか否かについて大きな論争となり、存在を証明するために、ニムロッド、ジョウズ、ミスと名付けられたドップラーレーダを動員しての特別観測を、シカゴ、デンバー、ハンツビルと場所を変えて行うことが出来たことなど、アメリカならではの研究環境に恵まれたことも見逃せない。また、彼の研究を、アメリカの航空関係者や一般市民が熱心に支援したにも忘れられない。とにかく、若い気象学者の方々に是非読んでいただきたい小冊子である。（渡辺和夫）

追記：気象学会では藤田博士の意志により、学会会員の希望者に配布（無料）することにしております。日本気象学会事務局まで申し込み下さい。なお、郵送の場合は送料負担となります。